

2022年度シラバス

科目名:芸術の世界	担当者:基村 昌代・田端 智美・石山 英明	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須・選択	選択必須

授業概要と方法

【担当者の実務経験】高等学校教諭（美術）の経験を生かし、高等学校との学びの継続を行う。また芸術の教養を身につけるよう、美術鑑賞・音楽鑑賞・ICT利用等も取り入れながら、体験的に学ぶことができるようにする。【AL】

本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本授業では、音楽・美術等、芸術に関して多角的に幅広く講義し「芸術とはなにか」を追求する。芸術の細かな知識を身につけるのではなく、世界共通の文化として概略的に理解・経験する。幅広い知識、高い教養、豊かな人間性をそなえるべく、深い真理の探究ことを目標とし学修する。音楽作品と美術作品を様々な形式で鑑賞し、講義と併せて授業を展開する。

授業の到達目標

- ①芸術とは何かを自分なりに理解できるようになること。【DP】
- ②芸術を実際に体感・鑑賞し、芸術に対する理解を深める。【DP】
- ③芸術を鑑賞する力や方法について考察し、身につける。

【到達目標と深く関連する学科DP】

- ◎高い教養に資する知識・理解
- 価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

美術館・音楽会等に参加して芸術鑑賞を自らすすんで行うこと。

評価方法

レポート評価(50%)、毎回の授業の終わりのリフレクション等(省察・振り返り:ミニッツペーパー等を記述)への対応(30%)、授業への参加態度(20%)を対象として総合評価を行います。課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書

適宜プリントを配布します。

参考図書

授業内で適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

「芸術」は幅の広い概念です。普段から「芸術」に興味を持って、自らの幅を広げましょう。連絡はisiyama@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス・オリエンテーション	(基村・田端・石山)
02	総合芸術について	(基村)
03	ミュージカル「サウンドオブミュージック」が伝える様々な「愛」	(基村)
04	オペラ「カルメン」からみる女性像	(基村)
05	バレエ「ピーターと狼」の登場人物の個性とライトモチーフ	(基村)
06	モナリザはだれ? レオナルド・ダビンチを中心に	(田端)
07	ピカソは本当に上手なの? ピカソを中心に	(田端)
08	絵と会話してみよう! 子どもの美術鑑賞を中心に	(田端)
09	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう①(バロック・古典派①)	(石山)
10	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう②(古典派②ロマン派①)	(石山)
11	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう③(ロマン派②・近現代)	(石山)
12	音楽会・又は音楽を楽しむ人々と音楽にこだわる芸術家	(石山)
13	美術館に行ってみよう	(田端)
14	美術館に行ってみよう	(田端)
15	まとめ・レポート提出	(基村・田端・石山)
16	なし	

2022年度シラバス

科目名:子ども家庭支援論	担当者:太田 早津美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須, 選択	必須

授業概要と方法

【担当者の実務経験】保育士・保育園長

授業担当者の現場経験を基にした具体的な事例検討で、子育て家庭の支援の在り方を学び理解を深め実践力を高めていく（AL）。子育て家庭を取り巻く様々な問題や課題を抱えている子育て家庭の現状把握と支援策を学びながら、保育所や地域の子育て家庭のニーズや社会的課題を踏まえた支援ができるよう理解を深めていく。

授業の到達目標

①子育て家庭を取り巻く現状を把握し、子ども家庭支援の意義と保育者の役割について理解する（DP）。②子育て家庭の支援体制について理解する（DP）。③子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎知識・技能 ○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

子どもを取り巻く状況に関心を持ち、子育て家庭の実態と課題を把握し、子育て支援に関連する専門職として必要な知識について自らの学びを確認しながら、授業内容を幅広い知識をもって学ぶようにする。予習復習をして、教科書に記された大切な用語等を理解し覚えておく事。居住地の子育て家庭の状況や支援対策を知っておくこと。子育て支援センター等に出向き、親子のかかわり方を観察したり、保護者の子育て観や子育ての悩みを聞き、子育て支援についての学びを深めること。

評価方法

筆記試験（80%）、授業への参加態度・レポート・提出物（20%）。フィードバックは毎回の授業ノートに学び、内容や質問を記載する。筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第1回目授業に示し、評価して返却する。

教科書

学ぶ・わかる・みえる 保育と子ども家庭支援論 第2版(編) 石動瑞代 (みらい)

参考図書

<29年告示>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

新聞や報道による子育て家庭に関連した記事に関心を持ち、子育て家庭の現状をより理解するよう努めましょう。自身のワークライフバランスを考えた時にどのような支援が必要か考えてみましょう。 研究室7402

01	授業ガイダンス ・ 子ども家庭支援とは
02	子ども家庭支援の意義と役割
03	子育て家庭を取り巻く地域社会の変容と子ども家庭支援の必要性
04	保育士等が行う子ども家庭支援
05	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援
06	保育所・幼稚園・幼保連携型認定子ども園における子育て家庭への支援
07	子育て家庭の支援体制
08	子育て支援事業
09	多様な子育て家庭の支援と関係機関との連携
10	地域の子育て家庭への支援状況（調べ学習のプレゼンテーション）
11	要保護児童及びその家族に対する支援
12	保育現場での子ども家庭支援の現状と課題
13	子ども家庭支援を行う保育士の基本姿勢
14	子ども家庭支援の課題とまとめ ① 事例研究と支援方法の考え方
15	子ども家庭支援の課題とまとめ ② 今後の課題と保育者としての支援の在り方
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:乳児保育 I	担当者:太田 早津美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須, 選択	必須

授業概要と方法

【担当者の実務経験】 保育士・保育園長

授業担当者の保育現場での経験を活かし、3歳未満児の保育について、事例を示しながら実践力を高める学びができるようにする。3歳未満児の子どもの気持ちを受け止め理解するためには保育者としての専門性と感性が必要となる。乳児保育の意義、理念、内容、方法、子育てに関する専門的知識を講義やグループ学習、事例検討のアクティブラーニングで学ぶ（AL）。手遊びや歌遊びなど乳児保育の実践に役立つ技術を演習で習得できるようにする（AL）。

授業の到達目標

- ①乳児保育の意義や現状を踏まえ、乳児保育に必要な知識や技術を習得し、乳幼児理解や保護者支援についての理解を深める（DP）。
 ②3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育の内容と生活の流れ、保育所、乳児院など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を理解する（DP）。③乳児保育のために必要な実践力を身につける（DP）。
 【到達目標と深く関連する学科DP】◎知識・技能 ○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

乳児保育の基礎を理解するためには積極的に乳幼児とのかかわりを増やし、座学での学びを実体験で確認していくことが大切です。ボランティアや子育て支援センターでの観察や関わりの機会を増やしていきましょう。

日頃から以下のことを自主的に心がけ、乳児保育の学びを深めましょう。

3歳未満児の発達の理解を深めるために乳幼児との接触の機会を積極的に作る。乳児の生活に必要な環境、用具やおもちゃについて関心を持つようにする。

評価方法

筆記試験（80%）、授業への参加態度・レポート・提出物（20%）。フィードバックは毎回の授業ノートに学び、感想や質問を記載。筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第1回目授業に示し、評価して返却する。

教科書

理論と実践に学ぶ「乳児保育」太田早津美（編）青踏社
 平成29年告示保育所保育指針（フレール）

参考図書

適宜授業時に紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

授業の空き時間や長期休暇等を利用し、ボランティアや乳幼児と触れ合う機会を多く作り乳児の理解に努める。乳児保育に必要な手遊び・歌あそびを覚え、手作りおもちゃを作るなど、保育実践に役立つ技術の習得や教材研究を積極的に行う。
 研究室 7402

01 授業概要および評価方法等の説明 乳児保育の意義

02 最近の子育て事情と課題

03 乳児保育の現状

04 保育所保育指針を基にした乳児保育のねらいと内容

05 乳幼児理解と保育の視点

06 乳幼児の心身の発達

07 0歳児クラスの子どもの発達と保育

08 1歳児クラスの子どもの発達と保育

09 2歳児クラスの子どもの発達と保育

10 言葉の発達とコミュニケーション

11 実践例から見る乳児の理解

12 実践例から見る保育の展開

13 実践例から見る援助の実際

14 乳児保育における連携・協働

15 まとめ

16 定期試験

2022年度シラバス

科目名:保育内容総論	担当者:伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須, 選択	必須

授業概要と方法

【担当者の実務経験】公立幼稚園勤務（40年：内11年園長）の経験を踏まえ、保育全般について具体的な実践例をまじえながら学んでいけるようにする。
3法を知り、幼児教育・保育の基本を学び、各年齢及び一人一人に応じた保育内容・指導計画、園と家庭や地域との連携、地域における子育て支援などについて理解する。また、保育内容の変遷、諸外国の保育内容についても学ぶ。さらに、少子化の進行、子どもの生活や遊びの変容による保育ニーズの高まりや今日的課題を考えた保育のあり方について、仲間と話し合い、発表・報告をする。

授業の到達目標

- 到達目標 1 幼児教育・保育の基本を習得し、各年齢の発達・保育内容・保育の計画について理解する。【DP】
- 到達目標 2 一人一人の子どもの理解・遊び・環境・保育者の関わりについて、子どもの姿をイメージしながら考えることができる。【DP】
- 到達目標 3 自分の考えを表したり他者の考えを聞いたりして、自ら学び仲間と一緒に学び合う。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】

- ◎幅広い視野と知識と教養
- 保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

- ・授業計画を確認して授業に参加する。
- ・授業内容について教科書を見て予習する。
- ・授業内容を復習する。

評価方法

授業への参加・学習態度・学びの振り返り30%、課題の提出30%、筆記試験40%にて評価する。
課題については、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案を紹介する。

教科書

津金美智子・新井美保子編 新時代の保育双書『子どもの主体性を育む保育内容総論』（株）みらい

参考図書

幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

- ・免許・資格を取る学生は、休まず履修する。
- ・ボランティア活動等への積極的参加をし、子どもとのかかわりをもつ。
- ・周りの環境（人・物・事・自然など）に関心をもち感性を磨くことに努める。

01	オリエンテーション・授業の進め方・子育てを巡る動向と課題<グループディスカッション>
02	子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容（社会環境の変化・保育内容の基準）
03	幼児教育・保育の基本（環境を通して行う保育、育みたい資質・能力、10の姿の理解等）
04	遊びと保育内容（保育内容5領域の総合性）<グループディスカッション>
05	子ども理解①（乳児保育に関わる保育内容）
06	子ども理解②（1歳以上3歳未満児の保育内容）
07	子ども理解③（3歳以上児の保育内容）
08	子ども理解④（3歳以上児の保育内容）
09	子ども理解⑤（3歳以上児の保育内容）
10	家庭・地域との連携、健康及び安全、子育て支援
11	保育の計画①（教育課程・全体的計画とカリキュラムマネジメント）
12	保育の計画②（指導計画と保育の展開、保育の記録と評価）
13	保育の計画③（記録の実際）
14	我が国における保育内容の変遷（戦前・戦後、現代の課題）
15	諸外国の保育内容 <演習>世界の幼児教育・保育内容の調査発表 ★授業全体まとめ
16	筆記試験

2022年度シラバス

科目名:保育者論	担当者:上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須、選択	必須

授業概要と方法

【担当者の実務経験】幼稚園教諭

本科目は、現代社会における保育者の在り方について理解を深める。特に、幼稚園教諭の立場から、実践現場に根差した保育者の在り方を深く考えることを基軸に、幼稚園教諭・保育教諭・保育士など保育者の役割が変化しつつあることを踏まえながら、保育者としての制度的位置づけ、職務内容、資質、専門性などを理解するようにする。【AL】

授業の到達目標

- ①日本における学校教育や教職の社会的意義及び今日的課題について理解し、幼稚園教諭・保育教諭・保育士としての役割や資質能力・多様な職務について理解する（HDP3）。
- ②教師・保育者の全体的な職務内容を把握すると同時に、教師・保育者としての資質や専門性・義務や職業倫理について理解する（HDP3）。
- ③地域・家庭・社会的ニーズを踏まえた上で、多様な人材や専門家との協働・連携を通じて組織的に諸課題に対応する必要性について理解する（HDP3）。
- ④保育者としての資質や専門性を理解する中で、現代に求められる保育者像を明確化する（HDP4）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎HDP3：知識・技能 ○HDP4：思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

毎回の授業で、課題（テキスト予習及び次回のテーマ）を発表します。次回の授業までに、事前に教科書を熟読するなどして、テーマについて自身の考えを明確にして授業に臨んでください。また、理想の保育者像に関する課題は、授業での学びを生かしながら作成し、発表・提出に備えてください。

評価方法

理想の保育者像シート（25%）・最終筆記試験（45%）・授業への取組（各回FB：30%）で総合評価を行う。フィードバックの方法：各回のFB等における質問に関しては、次回授業時に口頭とスライドで回答する。また、理想の保育者像と最終試験に関しては、成績開示後に総合評価と講評、特に留意すべき事項等をMoodle上で解説する。

教科書

「子どもと共に育ち合うエピソード保育者論」井上孝之編
みらい（2020年改訂版）

参考図書

平成29年告示版 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

1年生の段階で「どのような保育者を目指したいか」を描くことは、今後の皆さんの道標となります。夢や理想を描きつつ、保育現場に必要な力量とは何かを考えながら、常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください。また、模擬授業では、聞き手の学びなどに留意しながら、授業展開をしてください（OH等は初回に開示します）。

01	オリエンテーション、ナショナルカリキュラムにみる保育者の役割
02	保育者として働く目的と意義 —保育者になるということ—
03	現代社会と保育者 —社会の変化と保育者に求められる今日的課題—
04	保育者の制度的な位置づけと職業倫理 —責務と倫理—
05	保育者の職務内容（1）—教育課程及び全体的な計画に基づくカリキュラムデザインと評価—
06	保育者の職務内容（2）—家庭や地域との連携を重視した多様な職務—
07	保育者の職務内容（3）—個々のニーズに応じた教育的支援—
08	保育環境の意義と保育者の役割 —保育環境をデザインする意味—
09	子どもの主体的な学びを支える保育者の役割 —遊びの展開や保育の充実を支える意味—
10	保護者の専門職的成長 —キャリア形成の意義と研修—
11	保育者の協働と連携 —チーム学校（園）と組織的な連携—
12	海外の幼児教育・保育の現状 —海外の保育実情と多文化共生—
13	保育者に求められる資質や専門性 —資質向上を目指した取組・組織とリーダーシップ—
14	理想の保育者像の作成
15	理想の保育者像プレゼンテーションとまとめ
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:教育実習Ⅲ	担当者:小原 倫子・上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:教育実習指導Ⅱの授業欠席が3回未満の学生・実習契約書の内容を遵守できる学生		単位数	3
		必須・選択	選択

授業概要と方法

【担当者の実務経験】幼稚園教諭

本科目は、幼稚園教育実習における実践的な学びを体験・学修する。特に、元幼稚園教諭の立場から、実習現場が実習生に求める実践的指導力などを事前に具体的に提示したり、訪問指導時等で学生と共有したりする中で、幼稚園教育実習における学びを学生が更に深めることができるようにする。【AL】

教育実習Ⅰの学びや体験を活かして、自ら課題を持ちながら幼児と関わりを深める中で、幼稚園教育の実際を体験的に学ぶ。また、教師としての職業倫理の理解をさらに深め、応用的・発展的な知識・技術・態度について体験的に学習すると同時に、教師としての実践的指導力の基礎を培う。同様に、修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解し、自らの保育観・教育観を持つようになる。

授業の到達目標

①幼稚園の役割や機能や、施設・設備・環境構成等を踏まえた幼稚園教育の在り方について、実際に即して学ぶ(DP) ②発達に応じた幼児の実際の姿を通して幼児理解を深める(DP) ③観察、参加、指導実習(部分・総合)等を通して、指導計画の立案や実践の展開・評価などの幼稚園教育の実際を体験的に学ぶ(DP) ④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ(DP) ⑤地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割について、実際に即して学ぶことを通して、幼稚園と家庭・地域等との関係についての理解を深める(DP) ⑥幼小接続の在り方や、特別な支援を必要とする幼児への指導の実際、教育課程に係る教育時間終了後などに行う教育活動(預かり保育)の実際について、理解を深める(DP) ⑦幼児の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】

- ◎主体的に学ぼうとする力
- 思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

①実習の実施に先立って、教育実習指導Ⅲで学んだことをよく確認すること。②事前訪問時に実習園からいただいた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること。

【留意事項】実習開始までに以下の科目を履修または単位修得していること。

- ◆領域に関する専門的事項: 幼児と健康・幼児と人間関係・幼児と環境・幼児と言葉・幼児と表現から3単位以上
- ◆保育内容の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等: 保育者論・保育内容総論・教育原理・子ども理解の理論と方法・教育の方法・教育心理学・保育内容指導法(人間関係)・保育内容指導法(環境)・保育内容指導法(言葉)・保育内容指導法(表現)
- ◆教育実習関連科目: 教育実習指導Ⅰ・教育実習Ⅰ

評価方法

実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他(実習への意欲・実習状況など)10%を総合して評価する。フィードバックの方法: 実習園の評価等は、2月に教育保育職支援センターにて、個別面談による口頭開示を行う。

教科書

教育実習Ⅲの手引き・実習ハンドブック

参考図書

幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成29年告示版)

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

①本実習を行うに当たり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅲ」を履修することが条件となります(未履修者は本実習に参加することはできません)。②実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学・実習園へ必ず電話連絡すること(大学の受付は教務課実習担当: 0562-85-2345)。

01	実習実施期間: 2022年11月21日(月)~12月9日(金)3週間 事前訪問期間: 10月10日(月)~10月28日(金) 巡回教員研究室訪問期間: 10月31日(月)~11月10日(木) 【実習概要】幼稚園における120時間(計3週間)の実習を通して、観察・参加・指導実習(部分・総合)を体験する。①観察・参加を通しては、幼稚園での幼児の姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等の幼稚園教育の在り方について、常に自己課題を持ちながら、体験を通じた理解する。また、幼小接続の在り方、特別な配慮を必要とする幼児への指導の実際、教育課程に係る教育時間終了後などに行う教育活動(預かり保育)の実際等、幼稚園を取り巻く現実的課題に目を向け、具体的な教育実践の在り方や教師の配慮事項について、理解を深める。②参加・指導実習(部分・総合)を通しては、幼児の発達の姿、教育の実際、幼稚園教諭の職務の実際、幼稚園の役割や機能、家庭や地域との関係等を踏まえ、幼児への援助・指導計画の立案・教育実践の展開・実践の評価など、自ら意識的に体験をして実践的な理解を深めることを課題とする。同時に、研究保育などを通じて子と集団の育ちに配慮した教育実践を展開する中で、指導教諭からの意見を参考にして改善していく経験を踏まえ、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方について理解する。③将来の幼稚園教諭としての専門性を自覚し、自らの幼稚園教諭職に対する自覚を高めると同時に、保育観・教育観の涵養を図る。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	

2022年度シラバス

11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:教育実習指導Ⅲ	担当者:小原 倫子・上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期・後期
		配当学年	3
受講者制限:当該年度の教育実習Ⅲの履修を希望していること・幼稚園教諭一種免許状の取得を希望していること・教育実習Ⅰを履修済みであること		単位数	1
		必須, 選択	選択

授業概要と方法

【担当者の実務経験】幼稚園教諭
 本科目は、元幼稚園教諭としての経験を活かしながら、幼稚園教育実習における実習生の学びの深め方について、具体的に検討する。また、実習現場で求められる指導計画や実践的指導力などを具体的に検討・共有することを通じて、幼稚園教育実習に必要な知識・技能などを体験的に学ぶことができるようにする。【AL】

教育実習Ⅲのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に活かしていく。

授業の到達目標

①幼稚園における教育実習の意義や目標を理解する (DP) ②実習の心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む (DP) ③観察実習、参加実習、責任実習の内容について理解し、準備・実践・振り返りに意欲的に取り組む (DP) ④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や就職に活かしていく (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】

- ◎主体的に学ぶとする力
- 思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

1・2年の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのかの自己課題を明確にもてるよう、自ら進んで授業外学修をすること。毎回の予習課題に取り組み、事前学修を深めておくこと。

評価方法

予習復習課題 (4×8回=32%) ・ 各回のFB (5×8回=40%)、指導案発表 (20%)、授業への意欲 (8%) を総合的に評価する。

フィードバックの方法：指導案発表に関しては、発表時に教員からも口頭で講評を行う。また、各回の学びに関する質問については、次回の授業時に口頭（もしくはMoodle）で補足説明・回答をする。

教科書

教育実習Ⅲの手引き・実習ハンドブック

参考図書

幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書（平成29年告示版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

- ・本授業は、幼稚園教諭免許状の取得を目指す全ての学生が履修する必要があります。
- ・公欠以外の理由で事前指導を3回以上欠席した学生や、正当な理由なく無断で授業を欠席・遅刻した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合は、その前後に必ず、教務課または授業担当教員に直接連絡をしてください（要課題）。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。
- ・下記8回の授業の他、教育実習Ⅲを履修する学生は、①実習園発表や実習倫理に関するガイダンス（誓約書・個人票作成）、②事前訪問ガイダンス、③実習評価票に基づく個別面談などが、授業外のガイダンスとして実施しますので、必ず忘れずに参加してください。

01	教育実習Ⅲの課題と幼稚園における教育の理解 —幼稚園教育の実際—
02	教育実習における指導計画の立て方
03	学年別の指導案の作成と発表（1）年少児
04	学年別の指導案の作成と発表（2）年中児
05	学年別の指導案の作成と発表（3）年長児
06	教育実習に向けての幼児理解と記録 —日誌の書き方—
07	教育実習直前指導（教師としての心構えや教職倫理）
08	教育実習事後指導 —学びの振り返りと自己課題の明確化—
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	教育実習事後指導（2）自己課題の明確化